

会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 25 年 4 月 23 日(火曜日)	開催時刻	13 時 30 分から 16 時 00 分
会議名	丸子地域協議会(平成 25 年度第 1 回)		
出席委員	斉藤重一郎会長、丸山かず子副会長、内田弘子委員、北村好美委員、工藤裕子委員、久保田和英委員、小宮山好豊委員、齊藤實委員、佐藤重喜委員、清水三枝委員、竹花和彦委員、竹花節子委員、永井正一委員、松山慶子委員、宮崎涼委員、宮下正明委員、村松正孝委員 (【欠席委員】池田佐代子委員、中澤ゆかる委員、宮坂雄一委員)		
市側出席者	片山丸子地域自治センター長、芹澤センター次長兼地域振興課長、水野地域振興政策幹兼丸子地域教育事務所長、清水市民生活課長、高野健康福祉課長、小相沢建設課長、丸山産業観光課長、滝沢上下水道課長、矢島丸子学校給食センター所長、翠川地域政策担当係長、清水地域政策担当統括主査、澤山地域政策担当主任		

会議次第

1 開会 (センター次長)

- ・ 新任の永井正一委員の委嘱書交付 (センター長から交付)
- ・ 配布資料の確認、欠席委員の報告

2 あいさつ

(センター長)

皆さんこんにちは。この 4 月に着任しました丸子地域自治センター長の片山久男でございます。どうぞよろしくお願いいたします。さて、平成 25 年度が始まりまして、本日は第 1 回目の丸子地域協議会ということで、一言ご挨拶をさせていただきます。

この地域協議会につきましては、皆さん十分ご承知のとおり、合併時に設置されました市の付属機関でございまして、住民の自治意識の高揚や行政との協働、また地域の個性を生かし、まとまりを大切にしながら地域内分権を進め、市全体の発展を目指すことを目的として、市内 9 箇所に設置されているところでございます。

丸子地域協議会では委員の皆様にご研究していただき、これまで地域課題の解決に向けたいくつかの市への意見書を取りまとめているところでございます。特に昨年 3 月に提言されました、わがまち魅力アップ応援事業に関する提言によりまして、上田市では新年度から制度を見直しまして更なる充実を図ったところでございます。

今年度につきましても更に議論を深め、地域の皆様の思いをまとめていただき、自治基本条例の基本理念でもございますように、市民の参加と協働による自治の推進、地域の個性と特性を尊重した地域内分権による自治の推進に向けまして各種の案件についてご審議いただき、またご意見をお聞かせいただければと思っております。

本日につきましては、会議次第にございますようにまず鹿教湯温泉の若手経営者と住民の皆さんが中心となり取りまとめていただきました、鹿教湯温泉 100 年ブランド創造マスタープランの概要説明をしていただきます。続きまして、協議事項といたしまして、老朽化しております鹿教湯 3 号源泉ポンプ改修にかかる丸子温泉株式会社への支援、こちらの方のご審議をお願いしたいと思っています。

その後につきましては、報告事項として、地域自治センターの重点目標、さらに主な施策についてご報告させていただきます。それぞれご意見をお聞かせいただければと思っております。以上、簡単ではございますが、着任のご挨拶とさせていただきます。よろしくをお願いします。

(会長)

皆さん、あらためましてこんにちは。平成 25 年度第 1 回の丸子地域協議会開催いたしましたところ、委員のみなさんにはお忙しいところご参集を賜りまして誠にありがとうございます。

今年も、今日も肌寒い日ですが、4 月に入って 2 回も大雪が降ると、また先週の金曜日あたりは 27、28 度あたりになると夏日で、非常に天候不順な陽気でございますし、また地震等も頻繁に発生しているわけでもございまして、本当にいい年であってほしいなと思っている昨今でございます。

なお、委員の皆さんには今年一年大変お世話になるわけでもございますが、よろしくご指導のほどお願い申し上げまして、簡単ですが開会に先立ちましてのご挨拶といたします。大変ご苦労さまでございます。

3 自己紹介（副会長、出席委員に続き、政策幹、各担当課長、事務局の順にて）

4 鹿教湯温泉 100 年ブランド創造プロジェクトマスタープランについて

（説明者：鹿教湯温泉 100 年ブランド創造プロジェクト代表）

ただ今ご紹介いただきました、鹿教湯温泉 100 年ブランド創造プロジェクトマスタープラン、リーダーの斉藤明と申します。過日の申請に際しましては、ご配慮をいただきまして誠に有難うございました。心より御礼申し上げますと同時に、これから一生懸命、真摯に取り組んでまいりますのでよろしくお願いしたいと思います。

それでは、かなりかいつまんだ形となってしまいますけれども、説明をさせていただきます。（資料が）事前配布でなかったということで、ざっと頭だしの部分だけ見ながら進めてまいりたいと思いますけれども、先ず 1 ページ目、危機的な現実と言うことで、1 番、温泉地の命である温泉がダメ、埋設したからどうなっているのか、温泉が来なくなったら僕たちはどうなるんだろうということでもございまして、かなり敷設してから長い期間たっておりますので、ポンプも落雷等への対応もかなり弱くなっておりまして、源泉が止まることもたびたびであって、困った現象にございます。また、配管のほうも時々漏れたりして、ちょくちょく源泉が止まるということで心配な状況でございます。

危機の 2 番といたしましては、あんなに賑わっていた集団保養、今では減少の一途ということでもございます。かつて冬場の集客のかかなりの部分を占めておりました、J A 長野厚生連による集団保養がかなり減ってきておりまして、冬場の集客も大変な状況にあるというのが現状です。また、そういったことを通じて鹿教湯病院の関係の方との交流が少なくなっているというのが現状でございます。

2 ページに入ります。危機の 3 番といたしまして、建設当時は斬新であったクアハウスでございます。クアハウスがあるだけで、ある一定の集客が見込めたという時代もあったわけですが、今はもうあちらこちらに出てきたりとか、時代遅れになってきたのではないかとということで、損壊が問われている状況です。

危機の4番といたしまして、お客様が年々減っていくということでございまして、施設の陳腐化ですとか、もともと小規模事業者が大変多い温泉地でございますので、仮に満室になったとしても利益の額が小さいということも（ちょっと乱暴な表現になるんですけど）ございまして、まずマンパワーが大変足りない。そして、そういったことから始まって、なかなか営業にも行くことが出来ない。また、お金をお出しいただくことが大変厳しくなっている。そして、宿をたたんでいく一つとして、後継者がいないということも鹿教湯温泉の一つの特徴的なことであろうかと思っています。

危機の5番、これが温泉街の顔ですかと、メイン通りのことですが、下の写真4枚ご覧頂くと分かるのですが、これはたまたまこの日にお店が休んでいたということではございません。いまのところ残念ながら1年365日、いつお越しいただいてもこのシャッター通りという状況になってしまっておりまして、大変残念であると同時に、こういったところにみえた方がここにまた足を運びたいかと思うとかなり微妙かなと思っております。この現状を何とかしなければならないと考えております。

危機の6番といたしまして、鹿教湯温泉はかつて健康の里として一斉を風靡した時代もあったわけですが、その時の温泉地づくりのテーマが、まず健康ということでございました。健康の中でも、健康は歩いて足からつくっていくという考え方の下ですね、温泉街に散策道などを整備して、また21番名所めぐりということで、歩いていただくきっかけを温泉街に設けて、そして歩いていただいた。歩いていただいたことによって多くの人が健康になって回復されて帰られたということで温泉地づくりにもさらに魅力が加わっていた。今ご覧いただいている3枚の写真のところでございますけれど、これ急傾斜地の崩壊対策エリアといったことでもあるんですが、整備しても雨などの自然環境によってちょっと残念な状況になっておりまして、手が入れにくい、また入れてもすぐに崩壊してしまうという状況でございます。温泉街を散策できるというのは鹿教湯温泉の魅力の一つでございますので、この辺をなんとかしていかなければいけないなと考えております。

危機の7番目ですが、この丸子エリアもそうだと思うんですが、都会の方の感覚からしますと、かなりバス代も高いということで、これ10月の1日からは鹿教湯温泉を最大の料金が上限500円ということになっておりますが、この辺につきましても既に再三、千曲バスさんとコミュニケーションをとりまして、千曲バスさんでも検証にいかれたようですので経過を伺いながら今後の抜本的な公共交通機関との接し方というところに踏み込んでいくかと思うんですが、そういったことについても検討して参りたいと考えています。

こういった関連のお話をしていまして会議をしていきました。4ページをご覧いただくと、目指している基本方針はこれだということでございまして、ちょっと温泉権利の関係もございましたのでこれを解決していくと、そして温泉管の敷設替え、湯量の確保、温泉エネルギーの有効活用、回復保養という鹿教湯温泉、原点回帰と知新、相互メリットとなる鹿教湯病院との連携再構築、連泊滞在型温泉地、「旅館に住む」温泉地スタイルの推進、グローバル化を見据えた魅力ある商品提供と時代を先取りした宣伝広告営業活動、地域住民にもメリットがある誇りのある街づくり。ハード面ソフト面ですね。ここのところがわが街魅力アップ事業で取り組んで参りたいと思える一番のところでございます。そして、交流人口に対応した先進的な情報インフラの整備、公共施設のあり方と旅館の業態転

換（多様な形態の旅館群）、国民保養温泉地丸子温泉郷（鹿教湯・霊泉寺・大塩）の魅力アップと活性化に向けた整備ということで大まかな方向性がこれになっています。

そして全体を一番俯瞰的にご覧いただけますのが次の 5 ページですけれども、ハードとソフトといった感じにこのようにまとめました。左のハード面の方からいきますけれども、温泉街の植栽と里山の景観づくり、バリアフリーと安全安心なまちづくり、安心・やさしい・回遊性のある道路整備、老朽化した温泉管更新、エネルギーと環境、湯端通りの再整備、情報インフラの整備。そして、ソフト事業、右側の方ですけれども、食の開発、着地型プログラムの開発、旅館業の業態転換、二次交通、鹿教湯病院及びケアハウスとの連携、広告宣伝PR営業、人材育成と組織育成、田舎暮らし、六次産業、こういった感じになっております。この中には既に地域で活動しておられる内村っ娘の会の皆さんですとか、地道に活動している地域づくり未来委員会という組織がございますので、そちらと多面的な接触をして営業して行きたいと考えております。また、右上のソフト事業の食の開発といったところですが、これは必ずしも新メニューとか、そういったことに拘泥した内容ではございません。内村っ娘の会で取り組んでおられて、これから活発化してくると思われるんですが、ケータリング事業もございまして、そういったことがどんどんラインに乗ってきますと、旅館のほうもこれまでの一泊二泊といった利用の形態、これが大半だったわけですが、今この時代にあって若い方のライフスタイルにそれがあっているのかと考えますと、素泊まりとか、朝食付きと言ったような利用方法もあるかと考えております。また、内村っ娘の皆さんと連携をするということは、その先に地産地消ということにつながっていくわけありまして、一例ですが、こういった感じで色んな部分と繋がっていったらと考えております。

もう一例挙げますと、右下の田舎暮らしでありますけれども、これにつきましては地域づくり未来委員会という少人数で活動しているグループがあるんですが、何とかしてこの田舎暮らしを促進して、小学校が地域からなくなってしまうように、そして地域により多くの方に住んでいただけるようにこれから頑張っていかなければなりませんけれども、空き家の情報ですとかそういったことを何とか上手に、まあ私たち観光関係ですと都会の方とも接する機会も多いものですから、そういったことで口を通じてあるいは他の方法で、田舎暮らし、定住人口の増加といったことにも力を密に足していけたらなと考えております。

かなり大雑把な駆け足の内容でございますけれども、以上簡単ではありますがご報告をさせていただきます。

（質疑・応答）

（委員）5 ページの田舎暮らしについて説明があったんですが、端的な例で青木村におきまして分譲してお年寄りの方に薦める、シルバー産業をこちらに呼ぶというのが、粗方失敗しているんですが、その原因と言うのは寒さ、雪、それでほとんどそれで失敗していっちゃうんですよ。ひきあげて別荘を作っても、2 年 3 年目にはこっちに居ないという感じですから、そういう点等よく考えてやっていかないと、かなり雪の降るところと寒いところはシルバーのお年寄りの方にとっては空家対策として非常に厳しいという点は理解しておいたほうがいいかなと思います。

(プロジェクト代表) ありがとうございます。寒さと言うのは、私自身想定もしていませんでした。地域づくり未来委員会のみなさんがどういう風に考えているのか今のところちょっとわからないのですが、その点を伝えて対応していきたいと思います。なお、若干余談ではございますけれど、地域づくり未来委員会のほうに聞いてみたところ、実際には空いているんだけど貸していただけないというケースの一つの端的な例といったしましては、仏壇があるから貸せないといったような声が結構あったようなことでございますが、まあ、これはあくまでも余談として聞いていただきまして、寒さにつきましてはまた伝えてコミュニケーションとりながらやって行きたいと思います。ありがとうございました。

(委員) いろいろ検討されておられますけれども、是非検討をもっと深めていただきたいと思いますが、温泉と言うのは全国にたくさんあってそれぞれがそれぞれにみんなPRしているわけですね。ですから温泉と言う形でのPRで果たしてどれだけ効果があるのか、そこが一つのポイントになるのではないかなと思う。鹿教湯の魅力は何に求めるのかというのが、いくつか上げられているんですが、やはりこれだっていうものを協力に打ち出さないと、あれもこれもあるよと言っても、なかなかリピーターのお客さんにどこまでつながっていくかと言うのがどうかなと思うんですね。やはり、一つの魅力は健康とのかかわりで、過去に私の知っている人は三重県から来ていて驚いたこともあったのですが、そのくらい全国的に名の知れたことがあって、これは病院との関係がなぜこういうふうになってきたのかということがこの中では触れられていないのですが、ひとつの切り口としては健康と言うことについてですね、集中していったらどうなのかというふうにお聞きして感じていたのですが。是非、もう少し温泉のどこにでもある訴え方ではなくて、なんか鹿教湯らしい訴え方を検討していただいたらどうかな、とそんな風に思うんですけど。

(プロジェクト代表) ありがとうございます、おっしゃることはごもっともだと思ひまして、私も旅館組合長のときに色々なところへ宣伝PR行ってきたんですけど、やはり言葉で一番伝わりにくいのが、いい温泉であるということと、いい環境であるということ、この二つはまず言葉では伝わらない一方で、2回3回と繰り返していただく上では、一方では一番大切な要素であると思ひましたし、今も思っております。他所の温泉場との違いはやはり、おっしゃられたとおり、あれだけの大きな医療機関でしかもリハビリに大変力を入れている医療機関があるということが鹿教湯温泉の一つの特徴であると思っておりますので。また、リハビリの患者さんが温泉街を散策されるというのは鹿教湯温泉で非常に特徴的なシーンでございまして、医療出版関係の方がお見えになりこの手の話をすると、まずその写真を撮りたいと仰るくらいに特徴的な光景であり、また特徴的な取組みであります。

関わりにつきましては、後ろのほうに数値的なデータがございます。16ページをご覧ください。地域の関連数値のデータがございまして、学校の定員が減り、色々なものが減ってきた中で、あれだけの山奥にある医療機関の鹿教湯病院の職員さんの人数が500名近くも増えているという極めて特殊な例だと思うんですけど、おそらく医療制度とか、JAの長野厚生連の経営方針とか運営方針に従っていった結果なのかなと推測しているんですけども。こういった形でこちらから何かを求めていっても、JAの長野厚生連の方針とかが大きく地域との関係の中では関係して参ります。事務長さんが仰

ったんですけれど、いまどこかのエリアの病院のことをやってまして、それが落ち着いたら、鹿教湯病院を今後どうして行くのかということについて、長野厚生連のほうで検討が始まるのだそうでそこから先のことで、場合によっては翻弄されるかなということもありますけれど。最近、特に温泉街を歩いていて感じるのはですね、療法士さんがかつてより地域の方に対して挨拶をしてくれるという光景が、先方から挨拶をしてくれる光景がぐっと出てきまして、かなり気持ち的にも近くなってきたのかなと感じているんですけれど。また、地域といたしましても、温泉街の整備をしていくなかで、療法士さんの視点と言うのがこれから大切になってくるのかなと考えております。そういったことも見据えまして、これから病院の職員さん、とくに療法士さんなど現場で少しコミュニケーションをとって、交流会をしていきたいと考えております。以上です。

（委員）私は商工会の商業観光会長ということでおお世話になっています。美ヶ原をどういうふうにかかえていくのか。なぜ大きなエリアとして上田市は青木村を含めて、美ヶ原の観光と鹿教湯温泉を含めたすべての観光というのを。今、美ヶ原イコール松本市なんですね。もうちょっと大きな視点で、なんで考えられないのかなと。それから、医療、医療と言っているけれども、スポーツマンの温泉利用のくくりで、集客も相当期待できるのではないかなと感じているんです。今そのところ、商工観光部会ではそのところを少し研究しています。そのところをまた、意見交換できればなと思います。よろしくお願いします。

（プロジェクト代表）ありがとうございます。実は旅館組合のほうでも、今まではスポーツの集客と言うと圧倒的に菅平がというイメージがありましたので、あまり積極的にやってこなかったわけではないんですけれど、今年はスポーツコンベンション的な事業も少し考えて行きたい。また、菅平の方も鹿教湯病院のスポーツリハの関係に少し関心を持っているようで、その辺は展望があるのかなという気持ちでおりますので、また病院との交流会の中において、いろいろコミュニケーションをとって行きたいと思っております。また、美ヶ原のほうは、冬場は行きにくい部分があるんですが、二次コース、着地型商品と言うことで、滞在の中での観光では十分エリアに入ってきますので、この点についても深めて行きたいと思っています。以上でございます。

（委員）果たしてこれはどうなのかわからないけれど、例えば乗鞍のバイクレースがありますよね。ああ言う様な企画、美ヶ原全土を含めて、もうちょっと大きなエリアで考えられないかなと。逆に言うと、そう言う若い皆様方から声があつて、山岳レースが出来ればこんな楽しいコースは、乗鞍より数段上になりますからね。小さいバイクのレースは松本市が企画していますけれども、もうちょっと大きな、最終的には鹿教湯温泉に下りて来てもらって、道路の整備もしなくてはいけないが、温泉療養してもらって帰っていただく。もうちょっと視点の高いところで見ていただいて、目先のことも大事ですけど、もうちょっと大きなところで望んでもらいたいなと思います。

（プロジェクト代表）今まで考えたことの無いような規模の話でありまして、是非とも検討していきたいと考えております。どうも有難うございます。

（委員）私たちといたしますと、鹿教湯温泉が大変だと言う話は聞くんですが、営業が会社に回ってきたということはない。また、逆に上山田温泉は危機感があるのか、しつこいぐらいに年に3回とか4回とか回ってくる。実際にお客さんが来たときに連れて行く時は、別所温泉あたりを選んでしまうのがどうも多いようです。話のものは社長さん

たち、外部の人たちなどで、本当にそうなのかは分かりません。営業の方に工業団地のところへ回って来ましたかと聞くと、特にはないですという話が多いです。そういう点はどのようなかなと、地元だから行くだろうということには私たちもなかなかならないですし、何か目新しいプランでもあれば、こういったプランがあるので見に行ったらどうですかと言う風に言えますけれど。まあ、遠くから来られたお客さんに、言い方悪いですがまあ遠いということもあるんですけど、紹介しにくいなと言うのが正直あります。

あと、もう一点はこのあとポンプの改修の話もあるようですが、その際に環境エネルギーのことをやられるようでしたら、出来れば私たちも一緒にやりたいなと言うのがありまして、実際に環境エネルギーの小水力発電、水力発電の問題で大きな水車を造っただけで年間かなりの人数を呼んでいる市役所が山梨県にあるんですけど、そこに大きな水車を造って水力発電をやってますと言うだけで全国から見に来る。一種のそういったポイントがあってもいいのかなと。折角、ポンプ等の改修をされるのなら、温泉のお湯ですから、使えるかどうか分かりませんが、小水力発電としての利用もあるのかなと少し感じたものですから、私たちも直接観光に協力できることは少ないんですけど、鹿教湯 100 年ブランドとしてやられることは大変結構なことだと思っております。頑張ってくださいと思います。

(プロジェクト代表) はい、ありがとうございます。前段の営業と言うことにつきましては、まさにおっしゃるとおりでございます。昨年の年末あたりですかね、地元への営業が足りないというか、ほとんどやっていなかったという現状でございます。その辺のところを旅館組合でも大反省いたしまして、昨年、忘新年会プランをはじめまして、本年度も一生懸命地元で営業したいと考えております。地元の営業に関しましては数十年ぶりと言ってもいい位で、ほとんど有期に近い営業になりますが、地元にも伺いたいと思いますのでよろしくお願いします。

2 点目の環境のほうの関係ですが、いろいろな取組みが可能性としてある中で、水力発電と言うのは何度も話の中に出てくるところでございます。上水があるところには下水があり、下水があるところには、温泉や水の動的エネルギーがありますので、小水力発電と言うところも当然視野に入っておりますので、何らかの折にまたコミュニケーションをとらせていただきたいと思います。有難うございます。

(会長) 私も地元でもございますので、委員の皆さんには是非ご協力お願いしたいと、一言付け加えさせていただきます。プロジェクト代表の斉藤明さん、大変ご苦労さまでした。ここで退席されます。

5 協議事項

(1) 鹿教湯 3 号源泉ポンプ改修に対する丸子温泉開発㈱への支援について

(市からの説明内容) (次長から)

丸子地域鹿教湯温泉の温泉供給は上田市の第 3 セクターである丸子温泉開発株式会社が行っております。温泉開発㈱は、上田市の観光開発計画に基づき丸子温泉郷発展のための基礎を作り地域の振興発展に寄与することを定款に定めています。持ち株の過半数を上田市が所有しており、筆頭株主となっています。

温泉供給施設は、昭和 43 年の建設以来、45 年が経過しており、施設の老朽化が著しく

更新時期を迎えております。その中でも、管理している 5 つの源泉のうち、温度と湧出量に優れた 3 号源泉ポンプの交換を本年 7 月に予定しており、事業費は 15,487,500 円を見込んでいます。3 号源泉ポンプは平成 15 年の稼動から 9 年と耐用年数の倍近い年月が経過し、過去のポンプ交換の際には井戸の一部が崩壊する等の難工事となった経緯があります。もしこの 3 号源泉が停止すると、温泉の温度及び供給量が不足して供給停止となり、地域経済へ大きな悪影響を与える可能性が高い状況です。

昔も今も丸子温泉郷が丸子地域の観光主要地であることには変わりなく、その中でも牽引役となる鹿教湯温泉の基礎的インフラとしての温泉施設は、丸子地域の経済的発展に寄与するものと考えます。また、長引く不況による観光客の減少を打破すべく、地域の若手経営者と住民が中心となり、地域の活性化に向けたマスタープランを作成するなどソフト面での取り組みは既に動き始めています。

以上のことから、鹿教湯温泉の活性化と温泉の重要度の位置付けを鑑み、下記支援について協議を申し入れます。

対象事業名は 3 号源泉ポンプ改修工事、補助対象事業費は 15,487,500 円、補助率は 3 分の 2、補助額は 10,325,000 円、財源は上田市地域振興事業基金の持ち寄り基金分です。

支援理由といたしましては、(1) 鹿教湯温泉において、温泉は重要な基礎インフラであり、温泉を利用した商いが基盤産業である当地において、温泉供給は経済のライフラインであること。(2) 設立趣旨からも丸子温泉開発株式会社への支援は観光振興に資すると考えられること。(3) 上田市が 56.3%の出資をしている会社であること。(4) 地域課題について地域自らが検討し作成したマスタープランに本事業が定義付けされていること、でございます。

続きまして、3 号源泉の位置ですけれども、斉藤ホテルの南側の内村川側の上にあるポンプでございます。

鹿教湯温泉と上田市総合計画等との位置付けについては、第一次上田市総合計画後期基本計画（H24.3.31 策定 平成 27 年度までの 4 年間）に更に明確に明記されています。

また、信州上田観光ビジョン（H20.3.31 策定）には観光をリーディング産業に育てていくための、その重要性を示しています。

本件についての地域協議会でのご意見を賜りたく、よろしくお願いします。

<質疑・応答>

（委員）今日の説明で分かったような気がするんですけど、1 月 30 日の地域協議会の時に、平成 25 年度地域振興事業基金の活用事業についてということで資料頂いてあったのですが、今回この 4 月の冒頭で、7 月に改修工事を行いたいということであるので今出されているかと思えますけれど、これまでの経過と言うか、改修が急に決まった話なのか、25 年度の当初予算には載せられなかったのか、どのような感じになっているのでしょうか。

（次長）委員のおっしゃるとおり、当初予算に乘せるのが通常でございますけれども、温泉開発関係は当初本工事費を 600 万円の概算見積りを行ったところですが、その後現地を確認して分析したところ、業者等の再度の見積りにより、老朽化が思ったよりひどく今回の約 1548 万円と高額になることがわかりました。その件につきまして 3 月 15 日の温泉開発の取締役会で協議を諮りまして、市の補助をいただきたいということになったという経過でございます。

(委員) 平成 15 年から 9 年間稼働で耐用年数の倍近く稼働していたが、本来は 5 年が耐用年数ということですか。

(次長) ポンプの仕様等、耐用年数は 5 年ということでございます。

(委員) ということは、この次の 5 年後もまた、何千万円もかかるわけですか。

(次長) 今回のポンプについては 5 年で、今回それと一緒に、下に入っている管も一緒に改修を行うということで、それが今回の経費の基になっています。

(委員) 先程、別所温泉と鹿教湯温泉、二つ並んで説明ありましたが、上田市の名湯ということで。別所温泉は温泉開発の会社が出来ているんですか。このように 5 年ごとの対応、別所温泉はどのように対応しているんですか。

(次長) 丸子地域では第三セクターの丸子温泉開発株式会社というのがあります。別所温泉は、財産区がそのお湯の配給をしているということで、形態は全く違う。ポンプの入れ替え等について、どの位のスパンでやっているかというのは未確認です。

(委員) ポンプの耐用年数 5 年とすると、財産区だけでやっているということは、例えば上田市の別所温泉には補修修理費なんてほとんどないですね。結局、財産区でやっているということは、ポンプの 5 年ごとの入れ替えというのは財産区の中でやっているということですね。

(次長) お湯の泉質によっても老朽の度合いが違うので、5 年とすることがいえるかどうかははっきりいえない状況です。

(センター長) 別所財産区に対する助成と言うことで、私も詳しくは承知してないので、改めて調査のうえご報告したいと思いますが、別所財産区に対して温泉開発に関する補助金を出したケースは過去あったと記憶しています。その考え方として、上田市の観光戦略として、別所温泉をどう捉えるのかという考え方に基づいて上田市は財産区に助成したと、そのように考えるところでございます。

(委員) ポンプの改修について、温泉開発の位置付けとか、温泉観光の重要性とか、いろいろ説明がありまして、上田市の出資比率が重要性の観点から 56.3%で過半数を占めているという、重要性という観点からこういった出資比率となっているということで、いろいろ非常にご丁寧の説明いただいたが、基本的に丸子地域の鹿教湯の位置付けとの間に、聞いていると若干の段差を感じるところがある。名湯百選シンポジウム開催事業のときも 50 万円で、それ以上いらないといった経緯で、センターとしてもそれで決着をつけたと。だけど、積極的に取り組んだ結果としてそうだったのかと言うと、出資比率 56.3%の重要性との間になにか少しギャップを感じる。その辺どうだったのでしょうか。

(産業観光課長) 名湯百選の話が出ましたので、ご説明させていただきたいと思います。昨年、第 1 回の名湯百選が北陸で行われたと、その時の予算等も考慮した中で今回の補助金を確定しております。また総事業費につきましても、地元で負担する分、市で負担する分ということになっています。また参加する旅館等からの負担金も含めまして、それについては自己負担で来ていただくようになりますので、実際の名湯百選の事業費としてはイベント等々の金額となっております。

今回の温泉ポンプ改修との関係につきましても、百選シンポジウムとは別の問題ではございますが、鹿教湯そのものの温泉をこれからどのように運営していくのかという根幹に関わるものであると産業観光課では認識をしているところでございます。

(委員) 今の名湯百選は一つの例として取上げたんですが、是非こういう重要性という観

点から全体的な行政の整合性ということについては是非厳正に取り組んでいただきたいと要望します。

（委員）この温泉の権利というのは鹿教湯温泉の旅館組合の方が全員これに係わっていらっしゃるのでしょうか。それとも、会員制みたいになっていて、その方達だけがその権利をもらっているということなのでしょうか。

（次長）温泉の権利というのは、源泉の所有というのではなくて配給を受けている旅館ということでよろしいでしょうか。株主等もいるんですが、株主全体で51名、その内の上田市が一つ持っています。丸子温泉郷として45、丸子地域で4、そしてその他という事で1、これは千曲バスですが、合計で51ということで、現在そのなかで温泉を供給しているのは40件で、鹿教湯温泉で37件、大塩温泉で3件、他に飲泉場として3件がございます。

（委員）3号源泉ポンプとありますが、ポンプはみんなでいくつあるのでしょうか。5つですか。ということは、5年に1回替えていくんですね。今回は9年ですけれど。そうしますと、毎年変えることにはなりますが、そのように理解してよろしいですか。

（地域政策担当係長）鹿教湯温泉は源泉5つございまして、源泉が急遽止まってしまうので予備ポンプを備えてはありますけれど、それぞれ源泉に一台ずつポンプが付いてございます。今お話があった件につきましては、3号源泉というのがボアホールポンプで地上にモーター・ポンプがあるタイプで、ほかのところについては水中ポンプで井戸の中にポンプがあります。この3号源泉ポンプというのは、今回の工事に特殊性があると言う事で、それは、井戸の中にケーシングという筒のような物があり、これによりお湯をせん状の構造で吸い上げている。その部分で傷んでいる可能性が高い。通常はこういうことはほぼないのですが、3号源泉についてはこういった特殊性もありまして、丸子温泉開発から支援のお願いが来ております。

（次長）補足ですが、特殊性があるという話ですが、普通のポンプですと300万から500万くらいですが、このくらいの範囲であります温泉開発の方の運転資金でやっていかれるものでございます。

（会長）ここでいい悪いとか、駄目とかの結論を出せる協議会ではございませんが、今の意見を参考にさせていただいて、是非行政側で対応をお願いしたい。

（センター長）委員の皆さんから積極的な鹿教湯温泉の振興をというご意見をいただきました。若干経過を申し上げますと、3月の取締役会で、今度の多額の経費になったことへの市への支援ということが出たと聞いておりますが、そんなわけで市のほうでは6月議会に向けて補正予算編成をしているところです。5月連休明けに市長査定がございます。ただ今、委員の皆さんから頂いた意見を、鹿教湯温泉を何とかせよという力強い意見でございますので、私と次長、及び産業観光課長とで理事者にむけて対応していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。貴重なご意見有難うございました。

6 報告事項

（1）平成25年度重点目標について

(市からの説明)

(次長) それでは私のほうから、全庁の重点目標について説明させていただきます。

資料 1 : 平成 25 年度丸子地域自治センターの重点目標 を説明。

(質疑・応答)

質問なし

(2) 平成 25 年度当初予算における主な施策について

(市からの説明) (各担当課長から)

(次長) 資料 2 : 平成 25 年度当初予算における主な施策 (丸子地域の主な事業) から、項目 No.1 から no.11 までを説明

(市民生活課長) 同資料 No.12 から No.18 までを説明

(健康福祉課長) 同資料 No.19 及び No.20 を説明

(産業観光課長) 同資料 No.21 から No.40 までを説明

(建設課長) 同資料 No.41 から No.51 までを説明

(次長) 同資料 No.52 及び No.53 の丸子消防課分を説明

(上下水道課長) 同資料 No.54 について説明

(地域振興課政策幹兼丸子地域教育事務所長) 同資料 No.55 から no.68 までを説明

(学校給食センター所長) 同資料 No.69 について説明

(質疑・応答)

(委員) 35 番の名湯百選について、現状報告ですけれども、先程、産業観光課長さんから御説明いただきましたが、まず 6 月 18 日の火曜日に、東京で連携会議を行います。私が代表として、報告に行ってまいります。また、11 月末の 27 日水曜日、28 日の木曜日、鹿教湯温泉で開催する予定として上がっております。今後、変更があるかも知れませんが、その都度報告させていただきます。

(委員) 地域振興課の方にお伺いしたいんですけれども、9 番、コミュニティセンター西内というのは、榎実の家のことでしょうか。それだけちょっと確認したい。

(次長) 以前、基幹集落センターと呼んでいた、西内小学校近くの施設です。榎実の家は、東内にございまして、それとは違います。

(委員) 関連してなんですけれども、コミュニティセンターと付いていますのは、榎実の家、熊の森、下長瀬の 3 つあり、指定管理者制度になっていると思います。私も管理をさせて頂いておりますけれども、非常に運営がきついものですから何とかならないかと、こういうところへ上げられたら何とか付かないものかと、具体的にいいますと、市民センターですが、あそこは使用料がゼロに近いと、むしろそのようにしたほうがいいと。それから、新幹線のときにできましたものですから、ナトリウム灯とか壊れています。この間もカーテンを取り替えましたが、そのようは費用が出てきまして、私たちの自治会は 6 個の部落がありまして、みんな分館、公民館がございます。その費用が大変なのは、どこでも同じだと思いますもので、考えていただけたらと思ひまして。

(次長) ご意見、ご要望として、承っておきます。

(委員) No.4 番ですが、自治会共同集会施設改修補助金というのがあるんですが、各自治会において一つだけが第一次避難所という事でいろいろと手当てもらっていると思うんですけれども、依田地区では北原公民館、御嶽堂地区は中山の公民館が基幹になってい

て、南原、三角、上組ですか、これらは対象外になっていますよね。それを、公民館と名の付いた限りは何とか。それぞれの公民館も大分傷んでまして、補助金がなくて困っているとの御嶽堂の自治会長のお話もあったんですけど、私どもの北原公民館についてもシロアリでやられてしまっていて、お金をかけて直さなければいけないということです。何とか、公民館と名の付く所は、何か補助金が付くように、最終的には区民、自治会のほうからも、丸子のときは補助金があったのに、上田市になつたらなくなってしまったという声がある。私もそう言う声を聞くと非常に胸が痛むもので、何とかその辺の見直しを、今年度は無理としても、来年度以降、公民館と名の付くところは補助金が付くようにお願いしたいと思いますけれど。よろしく願います。

（次長）公民館という名前が付いているということでありまして、各自治会において基幹的なもののひとつが公民館という位置付けで、それ以外、地域で公民館と呼ばれているものもあるんですけど、飯沼では常会と呼ばれているものもあるとは思いますが、名前だけで判断するのは難しいと思っております。これは、上田市全体の中の補助制度という事で、かなり件数が多く、一つの自治会でも最低でも3つとか5つとかお持ちで、上田市全体では大きなものがあるので、来年直ぐにというのはなかなか難しいと思います。自治会から要望があるという話しはさせていただきたいと思います。

（委員）今の件に付随して、センター長はご存知ないと思うんですけど、上田市には全部で28の小さい自治会があります。丸子町におきましての各自治会の規模なども考慮しながら、ケース・バイ・ケースでよくお考え頂いて、対応していただければ非常にいいと思います。集会所といいましても昔は公民館。捉え方としては上田の一つの公民館、そういったところも大分ありますので、よろしく願いたい。

（委員）57番ですが、各種講座等全部で3,490千円の予算がついている。記載に、まるこ春秋学園と夏期大学が挙がっているんですが、これは併せても1,300千円くらいだが。そのほか、細かいものがたくさんあるということですか、また他に挙がっていない大きなものがあるのかどうか、お尋ねしたい。

（地域振興政策幹）それぞれでいうと、細かいものでして、平成25年度につきましては28の学級講座を計画いたしまして、349万円ということでありまして。このうち主なものは、講座等の講師の謝礼でございまして、これが大きな金額を占めております。講師の謝礼と言うものを縦線にいたしまして、横線には例えば、文化財を活用した学社連携講座、これが概ね20万円くらい。一番大きなのは先程言った夏期大学で90万円余。その他の主なものは、わくわく体験塾と言うものが20万円弱の金額でございまして。講座の名前では、このようなものが主です。

（委員）7番の依田川リバーフロント市民協働事業、これ地域協議会が発足して相当早い時期に決定した事業ですがなかなか進んでいないような気がするのですが、進捗状況と、完成するまでのタイムスケジュールを教えてください。

（次長）分科会を設けてやってきた経緯がありますが、その中で整備をやろうというなかで、あそこを利用している人たち、事業者が、車庫、事務所等がございまして。そこについての交渉によって、最終的に移転をしていかなければならないということでございます。それによって時間が経過して、全体として整備ができ無いということでございますが、昨年度から事業に入りまして、テニスコートの裏側に不燃物処理場が丸子町時代にいろいろなものを埋めていたところがありまして、それについて事業廃止したので埋め立てていい

よということになり、埋め立てにより現在平らになっており駐車場になっています。依田川寄り、土砂だとかコンクリートだとかの置き場になっていたんですが、そこも片づけてきれいに整備してございまして、全然進んでないわけではありません。全部完成する時期の目安と言うのは今はないというところでございます。

(委員) なぜそんなことを言うかといいますと、そこに架かっている橋の付近の階段の下側、片側が既に流れてしまっている。昔はそこまで川だったんでしょうが、流れが変わってしまっていて、予定地の部分がどんどん削られてしまっている。左側の川が3メートル位掘られてしまっている。あの状態をずっと続けていくと、もっと削られていくのではという危惧を感じます。それで、立ち退き対象は2者？3者？

(次長) 1社と1組合がありまして、簡単に言うと2者ということになります。

(会長) 浸食のところは何か聞いていますか。

(次長) 浸食の情報は、こちらにも入っています。依田川へ降りる階段がある辺りのことですかね。

(委員) そうです。階段の下が削られていますね。

(建設課長) すでにロープで対応しているところですが、すでに根元まで流されている状況で、階段もう危険なものですから、上にガードレールを付けて県の方で止めているような状況になっています。依田川の河床低下についてはひどくて、そこばかりでなくあちこちで下がっており、県にも要望していますが、なかなか根本的な対策がない状況です。とはいえ、あそこは護岸が近いものですから、また県に要望しましてブロックを置くとか、全体的な中でまた要望をしていきたいと思っているところでございます。当面はあのままの状況となっております。

(会長) ほかにございますか。かなり要望事項的なものが多かったと感じますけれど、また対応をお願いしたいと思います。

(3) 分科会及び研究会での検討状況及び今後の予定について

(会長) 続きまして、報告事項(3)の分科会及び研究会の検討状況及び今後の予定についてお願いします。各分科会などから、お手元の次第の(ア)から(キ)の順にお願いします。質問は最後一括してお願いします。最初に、市民団体の交流と相互連携に関する分科会からお願いします。

(ア) 市民団体の交流と相互連携に関する分科会

(分科会会長) 前は協議会が遅くなりましたので、分科会を開いておりません。その前のときに交流会に関する反省が出て、それについては前回お話を申し上げました。それぞれの反省に沿いまして、このあと交流会だけではなく、せっかく交流会で出された様々な意見や活動内容についてどこまで連携ができるのか、提案を私たちの側でできるものなのか、それから交流会に参加して下さった団体の皆さんから、自発的に是非こういったことで一緒に出来ないかという意見をどう集めていったらいいか、これから今日の分科会の中でも進めながら、報告できるようにしたいと思っています。よろしくお願いします。

(イ) 公共交通に関する分科会

(分科会委員) 公共交通に関する分科会での検討状況及び今後の予定についてです。平成24年度までの検討状況では、平成23年の9月の研究会から専門部会になりまして、利用者の現状と運行経費の増加を続けているまりんこ号の運行を継続させていくため運行形

態の見直しを行って参りました。今まで6回の検討会議を行い、また、アンケート調査などを実施し、上田市地域公共交通会議及び国土交通省北陸信越運輸局の承認を得て昨年1月1日からまりんこ号の運行形態を廃止しました。その後、利用実態調査等も実施していただき、その結果、運行日一日あたりの利用総数は改定前の22.5人から改定後20.8人と若干減少していますが、一便あたりの利用者は改定前よりは若干増加しているという状況です。運行形態の変更により利用者の減少が若干見られるものの、運行効率は良くなっているという状況でした。平成25年度の検討ということでは、当分課会は引き続き循環バス利用者の実態を調査し、利用者増加の検討を行っていくとともに、バス運行の効率化とか、利便性向上についても検討を行って参ります。また、先程も予算のほうでありましたけれども、PRとか、まりんこ号のラッピングデザインとかも計画があるようなので、その辺についても分科会の中でもまた情報を得たりしながら、利用者増加につながる検討していきたいと思います。また、2月の分科会におきましては路線バス運賃軽減の話が出ておりましたが、その件とまりんこ号運行の関係の研究検討が必要だと言うことで今後も検討を続けて行きたいと思います。以上です。

(ウ) 地域内分権と地域経営会議に関する研究会

(研究会会長) 県内の、他の都市の実情調査ということで、GW明けに具体的に事務局にご協力いただいて進めて参りたい。市も地域内分権の取組みを強化するという方向にありますので、ここ何ヶ月かで取りまとめをして意見書として出すのかどうか、提案をして参りたい。GW明けに他の都市との折衝に入りたいと思っております。

(エ) 商店街活力アップに関する研究会

(研究会会長) 武石を含めて、市議員さんとの意見交換会を今計画しています。また、報告できると思います。

(オ) 新しい観光に関する研究会

(研究会会長) 次回会議は、この後の5月の協議会日程次第です。15か16日あたりにしたいと思っています。事務局より連絡をするかと思いますが委員の皆さんはよろしくお願いします。また、観光だけではなく、幅広い考え方で委員会を考えて行きたいと思っております。

(カ) 丸子ドドンコ見直しに関する研究会

(研究会会長) 3月で一応結論を出したいと思っております、魅力アップ会議の前に会議を開きました。その中で再度確認した点につきましては、その前の反省会で前センター長が存続したいとの、自治会単位での参加が非常に多いのが大変有意義であると仰っておられて、その点が特色がある。是非やってほしいとのことでしたので、やるということで研究会もその方向で進めました。中で、どのようにしたらいいかということについては、お金を渡すだけの実行委員会だけではなくて、もう少し実のある研究会的なものがないかと課長とも相談しましたところ、ことあと早めに準備会を立ち上げて、どのように今年の丸子ドドンコを企画したら言いかという会議を持ちたいということです。その辺を期待して行きたい。以前は、大玉送り等やって盛り上がったとか、屋台はわかまつの

前に集約したらどうかとか、子供が参加する何かが欲しいとか、いろいろな意見が出ましたが、準備会が立ち上がる際には、丸子ドドンコ見直しに関する研究会や、協議会の皆さんにも参加していただいてご意見を出していただきたいと思います。よろしくお願いします。

(キ) 地域の産婦人科医療を考える研究会

(研究会会長) 3月4月は会議を行っていません。この研究会は今年3年目を迎えますが、前回ここで報告したように、アンケートによって住民の考え方、何を不安としているか、どういうサービスを望んでいるか要望等を確かめまして、住民の声を集約して行きたいと思っています。もう少し、地域の産婦人科医療を考える研究会を続けさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

(質疑・応答)

(次長) 情報提供をさせていただきたいと思いますが、公共交通に関する分科会との関連事項としまして、現在カネボウ跡地へ路線バスが乗り入れたいという、地元とバス会社からの話がありまして、それについて地元の中丸子自治会と色々協議しています。まだ決定していませんし、課題もある。まあ、そのような話があるということで、前向きには進んでいます。詳しいことは、分科会の中で聞いていただきたい。

7 その他

(1) 平成25年度上田市わがまち魅力アップ応援事業：丸子地域の採択事業について

(次長) 12件の応募がありまして審議していただきまして、そのうち9ページの表にあります10件が採択になりました。2件については不採択ということになりました。10件の内の2番については継続事業で、そのほかは新規事業です。内容については事前に審議いただいているので省略します。

なお、今日現在ですが、既に5件の補助金の申請を受け付けております。

(質疑・応答) なし

(2) 地域協議会に関する広報について

(副会長) 正副会長会の際に、城南地域協議会から資料提供がありました。年に2回ほど編集委員2、3人構成でこの地域協議会だよりを編集している。丸子でも、自治センターだよりというのをを出していて、センターだよりの中に地域協議会のことが少し載っているという状態なんですけれど。城南では、地域協議会が一体何をしているかわからないという住民からの声が多くあったということで、地域協議会はこういうことをやっていますという地域協議会だよりとして出しているというご説明でした。

会長ともいいねという話のなかで、丸子でもこれを検討したらどうでしょうということで、ここへ付けさせていただきました。やり方としては、自治センターだよりの中へもっとページ数を割いて載せるとかやり方は色々あるが、これについて皆さんどう思うかご意見を出していただきたい。

(会長) 城南については、この間年に2回出しているという報告がありました。前回の丸子の自治センターだよりの中にも半頁くらいは地域協議会の概要を書いてもらってありま

すが。これを見て何かご意見があれば伺いたい。

（委員）提案としてはとても良いことだと思いますけれど、地域センターだよりもとても充実してきて見やすくなってきています。私たちは視覚障害の方にもご案内しているんですが、写真が一杯なので、どうやってこの写真を説明しようかと苦労しながら録音したりしています。発行物が色々増えましても、あまり目に触れなかったり読んでもらえなかったりというところで、もしも皆さんの熱意で何回かに1回は、1ページでもいいからA4一枚増やしていただいてそれぞれの意見を載せるということが可能であるならば、あらためてこの地域協議会だよりというものの編集がなくてもいいのではないかなと。例えば、月2回、どんどん文書が来ますが、なかなか全ては見切れない。家族を見ていても周りを見ていてもそうですし。ですから、できれば今あるもののの中に毎回でなくていいので、A4で1枚、地域協議会からの皆さんの各自のご意見を載せたりする面があればいいのではないかと思います。

（会長）今すぐどうこうという事ではございませんのでまた考えていただいて、次回の地域協議会に意見があればまた出していただきたい。たまたま、城南ではこんな形をとっていることを皆さんに知っていただくということで、今回の説明させていただきましたのでご了解をお願いします。

（3）次回以降の協議会日程について

事務局から日程案を提案する（地域政策係長から）

審議の結果、5月30日（木）、6月28日（金）、7月26日（金）、8月29日（木）、9月25日（水）に現時点で決定。開始時間は午後1時30分から講堂。

（4）その他

（全体を通して質疑・応答）

（委員）先程も申しましたが、丸子ドドンコ見直しにかかる研究会は終了ということで、今後は皆さん一緒に丸子ドドンコ実行委員会に関わる準備会のほうへ一緒に出ていただきたいということになりますので、よろしくお願いします。

8 閉会（次長）16：00